国語教科書三年（上）十六ページ～二十九ページ

三年　組名前

きつつきの商売

林原（はやしばら）玉枝（たまえ）作・村上（むらかみ）康成（やすなり）絵

読む力

①場面のようすを思
②文しょうを
ながら）、音読する力。
ぞうする）力。

【めあて】「
そ
このプリン
りしよう。

①どんな
②内ようをせいりする。

①どんなお

「キツツキの
とんなお話」と言えるかな。

れいをさんこう
とめてみよう。

れい（「スイミー」の場合）【「～が…するお話。」のようにまとめるよ。】

スイミーがなかまと力を合わせて、大きな魚をおい出すお話。

＊答えは一つではありません。いろいろなまとめ方があります。

◎「きつつきの商売」は、

だれ
きつつき
が、

何をする・どうなる

【ここは、先生が丸をつけます。】

お話です。

答え

②内ようをせいりしよう。

◎「きつつきの商売」という物語は、「ー」と「2」の二つの場面に分かれています。それぞれの場面は、どのようなようすが書かれていますか。教科書に書かれていることばをつかって、ようすをせいりしましょう。

	「ー」場面	「2」場面
登場人物 店の人	きつつき	きつつき
登場人物 おきゃく	野うさぎ	野ねずみたち（家族）
場所	ぶなの森	ぶなの森
天気	晴れ（天気のよい日）	雨（の日）
きつつきが聞かせた音 音のようす（カタカナで）	【 ぶなの木の 】の音 コーン	【 雨 】の音 シャバシャバシャバ、パシパシピチピチパリパリパリ、ドウドウドウ、ザワザワザワワ
音のねだん	百リル	ただ

◎二つの場面をくらべて、あなたは、「ー」場面のおきゃくと「2」場面のおきゃくのどちらのおきゃくさんになりたいかな。

＊理ゆう（わけ）は、教科書の中のことばや文をつかって、書くといいよ。
理ゆう（わけ）のおわりは、「～からです。」という書き方をするよ。

自分の考え

ぼくは、
わたしは、「　　」の場面のおきゃくになりたりです。

わけは、

【ここは、先生が丸をつけます。】